

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2491000077		
法人名	有限会社 福祉オフィス中村		
事業所名	海岸通り グループホーム南風		
所在地	三重県尾鷲市新田町21-5		
自己評価作成日	令和5年12月18日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2491000077-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和6年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的かつ開放感のある環境の中で、個々の有する能力に応じてゆったりとした生活がおくれるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

尾鷲湾や市街地を見下ろせる高台の住宅地に立地しており、過疎高齢化の進んだ尾鷲市の中でも、小中学生の登下校の姿は見かけることができる住宅街である。現在は、ホーム職員の駐車場となっている空地で、地区の子供会が夏祭りが開催されていた時期もあり、入居者の楽しみにもなっていた。利用者の自己決定を尊重し、地域の中でふれあいをもち、その人らしい生活が送れるように支援することを理念としており、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、その思いを共有し、実現のため、職員が一丸となって処遇に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、事業所の目的を定期的に会議の場等で理解を共有している。また新人研修の場においても丁寧に説明を行っている。	法人理念を玄関や食堂に掲げることはしていないが、自己決定の尊重、地域とのふれあいのある生活、その人らしい生活への支援を研修の場やケース会議等で確認し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人クラブ主催、趣味の作品展にアレンジメントフラワーやアルツハイマーデーに壁絵を作り出展している。趣味の作品展への見学や地域の美容室にも出掛けている。日常的に近隣の方との関りがある。	かつては、地区の子供会の夏祭りの場として、職員駐車場が使われていたとのこと。現在は、駐車場の一角で野菜等を作り、近隣の方にもおすそ分けしたりして、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた研修は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年6月より運営推進会議の開催を再開している。南風たよりとして広報を作り、今後の運営や取り組みに対してアドバイスを頂いている。	いつも議論が白熱し、一時間以上となることが度々とのこと。議題は、グループホームにまつわることを中心に幅広く地域の老人福祉について意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いた際に、業務継続計画やコロナ感染症等の現状報告を行い、法制度についても教示してもらっている。	主に推進会議の場で、市の担当者との意見交換し、市の取り組みや補助金等の情報を得て、運営に取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、内部研修を3ヶ月毎に行い、身体拘束について正しく理解出来るように努めている。玄関は夜間以外は施錠しておらず出入りが自由出来るようになっている。	現在、身体拘束しているケースはないが、3ヶ月に一度拘束について全職員で学び、拘束しないケアの実践に努めている。特にスピーチロックについては意識してケアするよう心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、内部研修等職員間の理解を深めると共に職員の介護負担の軽減を図れるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度、内部研修で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい言葉を選びながら、丁寧な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会も15分程度、エントランスで行い、全職員が家族との関わりを大切にしており、意見や要望等が聞けるように努めている。遠方の方には、2ヶ月に毎に南風たよりを発行しており、近況報告等電話連絡している。	利用者や家族からの要望や意見は、業務日誌に書き込み、全職員が共有し、処遇に生かしている。入居前の生活習慣的なことは、グループホームでも継続できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議、日々現場での意見交換、SNSを利用した情報交換、要望等を元に運営を反映出来るよう努めており、個人面談はその都度行っている。	開かれた職場づくりに努めており、定例の会議以外でも、いつでも意見を出し合えるように、困りごとの早期解決のためにもSNS等も活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境に配慮し、日々意見交換を行っている。労働時間の適正化を図り、ストレスの少ない条件下での労働時間になるように環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修や外部の研修で、個人が習得したことを内部研修等でも活かしている。職員一人ひとりの熟成過程を把握し、働きながらトレーニングを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議が開催されており、代表者が他事業所の会議に出席し情報交換を行い、当事業所の会議にも他事業所からも出席してもらい、相互訪問を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ自然にコミュニケーションを図り、本人の意向や身体の状態に添ったサービス提供が出来るよう努めている。日々安心した生活が送れるよう関係作りにも配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と利用者の関りを理解し、重視している。家族の思いや要望等、しっかり聞ける環境を整え、適切な支援が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況を把握し、家族とも相談の上、現時点での必要なサービスが提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人としての関りを大切にし、家族に近い関り方、支援に取り組んでいる。自然に役割を持ってもらい、楽しみながら共同生活を送れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族双方の想う気持ちに寄り添い、利用者、家族の関係性や関りを継続できるよう、電話の取次ぎや買い物の依頼、面会の促進等家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の美容室へのお出かけや家族や親戚、友人等、15分程度の面会支援。月に1回程度の市内をドライブ、小人数毎ではあるが、初詣にも外出されている。墓参りにも1名出掛けられている。	美容室や床屋は、入居前に利用していた店を継続して行けるよう支援している。また、通院の際や土曜日のドライブでは、馴染み場所に出かけるようにして関係を途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関りながら、共同生活していく中で、利用者同士の関り方を把握し、互いが尊重し合えるような機会を設けサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に相談や立ち寄れる環境作りに努めている。町で会っても気軽に声を掛けてくれる方が多く関係性は維持できている方が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向をサービス計画書に位置づけ支援に生かしている。また利用者との関りを大切にしながら意向を把握し、柔軟に支援出来るよう努めている。職員間でも話し合いその都度検討している。	日常のあらゆる場面で、思いや意向の把握に努めている。特にレクリエーション活動中の会話などから、聞き取ることもある。その内容は、計画書に位置づけ、会議録にも記載して実現に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人、家族、他事業所からの情報を元に生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	開放的で自由な時間が多く持てる環境を整え、ストレスの軽減を図りながら見守る支援をする中で、現状を把握し職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者との関わりの中で得た情報を元に会議等やスタッフが課題を考え、意見を出し合い作成している。	思いや意向は、介護計画への反映し、なお、毎月に定例の職員会議録に全員の課題が記載され、全職員でモニタリングする取り組みを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など記録に残し職員間で共有しやすい様に努め、介護計画や日々のケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の意向や状況を重視し、柔軟な対応を心掛けている。その時々必要性を考えた上で、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民との日常的な関りが継続できるように努力しながら、開放的な環境で自由に生活できるように支援している。畑で採れた野菜も利用者が近隣の方に届けており、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるよう利用者、家族、主治医との関係を築いていけるよう努めている。利用者によるが、基本的に入居前からの主治医にかかっている。	基本的には、グループホーム入居前からのかかりつけ医への受診を継続している。受診の際には、職員が同行し、生活上のことを主治医に伝達し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の指導や法人内の看護師と意見、情報交換を行いながら連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院担当のケースワーカー、担当の看護師と情報交換を行い、利用者が安心して治療を受けられるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、またはその都度主治医も交えて話し合いをし、事業所で出来る範囲のことを説明している。終末期の支援について、本人・家族にとってどうすることが一番望ましいかを主治医の意見を基に、家族と何度も話し合うようにしている。	入居の際に、ターミナルも含め主治医も交えて話し合いを行っている。状態に変化が現れた時には、再度家族や主治医と相談し、本人にとって一番望ましい暮らしについて話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員全体で共有している。見直しと訓練が随時必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に防災訓練を実施している。近隣住民の協力も得ており、訓練時には近隣住民の方への報告も行っている。業務継続計画作成について、運営推進会議で推進委員の協力を得ている。	年に2回の防災訓練を行っている。また、近隣住民にも警報サイレンが届くように非常ベルを配置し、近隣者の支援を得やすい配慮がされている。非常用の水や食料は一週間分は確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護について年1回事業所内で研修を行っている。職員全体で基本的な人との関りを意識して、特に言葉遣いには注意している。	呼称は、さん付けで行っている。また、「ちょっと待って下さい。」という際には、「いま、何々をしているので、何分待って下さい。」と具体的な理由と待ち時間を説明するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り自己決定できるよう支援に取り組んでいる。思いや希望を言葉で表現する事が困難な場合でも、表情や身振り手振り等を参考に本人の思いに添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度、個人の動きに合わせて職員側の動きも変えていけるよう、職員側の決まり事は最小限にしている。自由な空間が維持できていると思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感のある身だしなみを基本にし、利用者の好みに合わせ、家族が用意してくれた物や自ら選んだ服でおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナウィルス感染対策で、外食が出来ていない状況だが、1ヶ月に1回食事会を開催している。職員と一緒に野菜を切り、料理を作っている。少人数であるが食器拭きや可能な方には下膳をお願いしている。	大きな食卓以外にも一人用のテーブルも用意し、他の入居者の食事ペースの影響を受けず、自分のペースで落ち着いて食べられるように配慮されていた。月に一度の入居者も調理に参加する食事会を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は内容のバランスの良さ、それぞれに合った量の提供を心掛けている。夜間の水筒の準備も含め多めに提供しており、水分の必要な方の量や嗜好の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り、自分でのケアを行い、出来ない分をサポートしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を気持ちよく行えるように個別に支援している。時間を決めてのトイレ誘導、介助も行っている。日々排泄のチェックをし、排泄の状態、習慣の把握に努めている。	昼間は、全員トイレにて排泄するように支援し、夜間も、一名のみ部屋のポータブルトイレで排泄する。安全な排泄を実施するため、トイレの戸にセンサーを設置し、見守り等の排泄介助を常に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトと牛乳を提供し、野菜の多い食事を提供している。個別に水分量を調整したり、毎日体操や運動での働きかけも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日や時間帯は決めておらず、入浴は利用者本人の意向も考慮し、入浴されたい方は毎日、あまり入りたくない方は2~3日に1回は入って貰えるように声掛けを行い支援を行っている。	希望される方は、毎日入浴している。浴室は一般家庭用のものだが、要所要所には手すりが付いており、浴槽への出入りや浴室内の移動の際に利用を促し、自力での安全な入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動から安眠につなげる事が出来ている。活動を通して体調や状態把握を行い、活動を個別に調整し支援している。1名の方が睡眠時無呼吸症候群で主治医に相談し、CPAP（人工呼吸器）を装着している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その都度、服薬マニュアル、独自に作った説明書を更新し、服薬内容の把握に努めている。症状の変化についても主治医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの嗜好に添ったものを極力提供している。その時の要望に合わせて活動し気分転換にもなるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩やドライブは継続して行っている。コロナの発生状況も踏まえ、家族との外出は控えてもらっている。職員と一緒に散歩の際、近くの商店でお菓子を購入されている。少人数ではあるが、毎日戸外に出て洗濯物を干してもらっている。	外の空気に触れることができるよう外での洗濯物干しに入居者を毎日誘い、一緒に干している。土日には、ドライブに出かけている。職員は、今以上に外出支援を行いたいと考えている。	ホーム周辺は、交通量も少なく、静かな住宅地でもあるので、散歩には適した地域である。午後の空き時間を利用して短い散歩を今以上に取り入れるなど検討されたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名の方が、本人・家族の希望により現金の所持をしている。近くの商店で職員と一緒に希望があれば出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡は自由に行っている。意思疎通が困難な利用者に対してお礼などの電話も職員がサポートし行っている。その時期に応じてハガキを出す支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を保ちながら、現在の利用者に配慮した配置で、自然光をしっかりと入れながら、不快な刺激がない様に行っている。季節感のある飾りは利用者で作成している。玄関の自動ドアは使い方が分からず混乱する場合もあるので、その都度付き添っている。	食堂兼居間は、9人の入居者が食事したり、趣味活動するに十分な広さがあり開放感がある。掃除も行き届いており、清潔感があり、室温や湿度も適切に管理され、居心地よい空間であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いくつかのパターンでホールが使える様に配置を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人、家族と相談し配置を決めている。家具も使い慣れた物を置いている利用者もいるが、利便性を考えて新しい物を持って来られる方も多く、それぞれの好みを活かして工夫している。	基本的に、各居室は自分で毎日モップをかけているが、足りないところは職員が掃除機で補って掃除している。部屋は整理整頓されており、清潔感が感じられ、心地よく過ごせるようになっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場やトイレには大きな表記をし自然に使えるような工夫をしている。生活の動線をしっかり作りながら、あまり物を置きすぎず分かり易いように配慮している。		